

特集

気候変動

この100年間で海面が19cm上昇したと言われています。近い将来住むところを追われる人たちが出てくるとも予測されています。気候変動は台風の多発や異常気象だけでなく、食物が育ちにくくなる、生き物が生きていけない、健康へのリスク、未知のウイルスによる感染症などさまざまな影響が考えられます。そしてその影響は子どもや障害者、高齢者など、より弱い立場におかれている人たちが真っ先に受けるのではないのでしょうか。『みんなのねがい』2020年9月号では「災害と防災」を特集し、災害時における障害のある人への影響を考えました。今月号では、もう一步踏み込んで、近年の災害の背景にある気候変動の問題に向き合います。

地球環境や気候変動について、より身近な問題ととらえて私たちの意識を変えていくことが今、求められています。地球環境に何が起きているのか、気候変動によって子どもや障害のある人たちにどんな影響があるのかをしっかりと見据え、一人ひとりがそれぞれのやり方・関わり方で日常生活や実践からできることを考え合いたいと思います。

Photo by NOAA on Unsplash

気候変動と子ども・障害者

京都教育大学

丸山啓史



被害の偏り

気候危機は地球規模の問題です。地球に住んでいる限り、誰も気候変動の影響から逃れることはできません。ただし、そのことは、被害が均等であることを意味しません。

気候変動に大きな責任のある高所得国よりも、気候変動への対処がむずかしい低所得国において、気候変動の悪影響は顕著になります。気候変動による被害は、温室効果ガスを大量に排出する裕福な人々ではなく、貧しい人々に集中します。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、報告書のなかで、「社会の主流から取り残された人々は、気候変動に對して特に脆弱である」と述べ、「ジェンダー」「階級」「民族性」と並べて、「年齢」や「障害」をめぐる問題に言及しています。気候変動による被害の偏りは、「子どもであること」や「障害があること」によっても生じるのです。

気候変動と子ども

国際連合の人権高等弁務官事務所は、2017年に「子どもの人権と気候変動」に関する報告書を公表しました。

そこでは、気候変動の否定的影響が子どもにも偏って生じることが示されています。子どもは、熱波に弱く、洪水等の災害の際に負傷したり死亡したりする危険性が高い。マラリアやデング熱など、気温が高い地域で蚊が媒介する病気によって命を奪われる子どももいる。気候変動の影響による食べ物や水の不足は、子どもの発育を妨げ、生涯に及ぶ悪影響をもたらしかねない。気候変動が誘発する紛争や戦争、性的暴力や身体的暴力、気象災害時における死傷者の目撃は、子どものメンタルヘルスに否定的影響を与える。また、気候変動と並行する大気汚染によって、一年の間に何十万人もの幼児が亡くなっている…。